

整理番号 07X12551-0  
発送番号 030847  
平成20年 1月29日

# 拒絶理由通知書

特許出願の番号  
起案日 審査官  
特許出願人代理人  
適用条文

特願 2003-282847  
平成 20年 1月21日  
烟中 博幸 様  
伊東 忠彦 様  
第 29 条第 2 項

この出願は、次の理由によって拒絶の日から60日以内に意見書を提出していただく必要があります。

## 理 由

この出願の下記の請求項1乃至4に係る発明は、その出願前に日本国内又は外国において、頒布された下記の特許文献1に記載された発明又は電気の技術分野において、利用可能となつた発明に基づいて、その出願前にその発明の属する技術的分野における通常の知識を有する者が発明をすることができない。

## 記

【理由について】  
引用文献1：特開2003-174693号公報  
引用文献2：実願58-70742号（実開59-177210号）のマイクروفイルム

請求項1及び4  
引用文献1及び2  
備考

（引用文献1との対比判断について）

【請求項1について】  
引用文献1には、本願の請求項1に係る発明の「制御信号」に相当するリセッティング信号を出力する回路（遅延回路7）の出力（出力信号b）が入力される出力回路（遅延回路8）を備え、該遅延回路の出力（OR1の出力）に応じて、入力回路（遅延回路1）とを有する構成を構成することとを特徴とする（段落10017）、（段落10018）【0022】～【0024】及び【図1】参照）  
そこで、本願の請求項1に係る発明と引用文献1に記載された発明を対比すると、以下の点を除き、一致する。  
本願の請求項1に係る発明の遅延回路は、制御信号をデジタル処理により遅延させるデジタル遅延回路であることが記載されているのに対し、この点が、引用文献1には記載されていない点。（以下、「相違点1」という。）

上記相違点1について検討する。  
遅延回路をデジタル処理により実現することは、常套手段であるので、本願の遅延回路に相当する引用文献1の該遅延回路（【図1】参照）をデジタル化するとは、設計事項である。  
したがって、本願の請求項1に係る発明は、引用文献1に記載された発明に基づき、当業者が容易になし得るものである。

(引用文献2との対比判断について)

つて、業者が容易になし得るものである。

である。とて得るは密易にならざるを構成するからである。

- 備考

சென்னை

- 索引

ॐ

調査した技術分野 H03F1/00~3/00

連絡先 特許庁審査第四部伝送システム 清水 智  
電話 03(3581)1101 内線3534  
FAX 03(3501)0699

